

イタリア・ニュージーランドラグビー博物館 特別展（概要）

（1）イタリアラグビー博物館について

① 物館の概要

イタリアラグビー博物館は、ローマ近郊、アルテナー市の中世の趣を残すカステッリ・ロマーニ地区にあり、ラグビー関連では15,000点を超える世界最大級のコレクション数を誇る。

コレクション最大の特徴は、1,600点を超えるラグビージャージで、イタリアナショナルチームについては、初めてバルセロナでプレーした1929年から今日までのものを所蔵している。

ジャージー一つひとつにはそれぞれのストーリーがあるといった考えから全てのジャージの持ち主と贈呈主の名前が紹介されている。

博物館は元ラグビープレーヤーであり、アルテナー市のラグビーチームのプレジデントも務めている館長コッラード・マトッチャ氏の情熱で、個人的なコレクションを展示する場として2012年11月に設立され、現在、多くのラグビー関係者の集いの場となっている。

②イタリアラグビー博物館 特別展の展示品（一部抜粋）



リーチ・マイケル（日本）着用ジャージ
（寄贈者 マウロ・ベルガマスコ）

2014年6月21日
日本対イタリア 26-23

〈展示品の紹介〉

寄贈者マウロ・ベルガマスコは、イタリアを代表するラグビープレーヤーで、2014年6月21日の日本戦は、代表キャップ100試合目であった。

着用者のリーチ・マイケルは、スポーツ史上最大の番狂わせと言われる南アフリカ戦で逆転勝ちを収めたラグビーワールドカップイングランド大会における日本代表チームキャプテン。



バック・シェルフォード（ニュージーランド）着用ジャージ

1990年6月23日
ニュージーランド対スコットランド 21-18

〈展示品の紹介〉

シェルフォードは、1985年に代表入りし、1987年のワールドカップ優勝チームの一員として活躍。同年にキャプテンとなった。シェルフォードは、当時の観客の期待に応えるべく、「ハカ」のパフォーマンスを一新したことで知られている。ジャージは、シェルフォードが最後の国際試合に参加した時のもので、オールブラックスとしては珍しく白が基調となっている。

（2）ニュージーランドラグビー博物館について

① 物館の概要

ニュージーランドラグビー博物館は、世界初の国立ラグビー博物館であり、50年前の1969年にパーマストン・ノース市に設立され、2011年に新館に移転した。

博物館は、30,000点を超えるコレクション数を誇り、ニュージーランドにおけるラグビーの伝来や普及、人気スポーツとなった経緯の紹介や、オールブラックスとブラックファーンズ（女子ニュージーランド代表）が世界で最も優れ、最も成功しているラグビーチームであると紹介もしている。

館内には、ラグビーの体験スペースも用意されており、世界各地からラグビーファンが訪れるとともにラグビー史の研究者やジャーナリストにとって重要な情報源として活用されている。

②ニュージーランドラグビー博物館 特別展の展示品（一部抜粋）



ニュージーランド代表の集合写真
・1884年に誕生したニュージーランド最初のナショナルチーム。ほぼ、全員がニュージーランド人で構成されている。



ニュージーランド代表キャップ
・1905年のニュージーランド代表キャップ



ニュージーランド代表ジャージ
・1905年当時に代表ジャージを制作したのと同じ機械で、38時間かけて忠実に再現した貴重なジャージ